

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

17号

2011年10月30日



若者よ、一緒にまちづくりをしよう



ここ数年、大学生などの若者によるまちづくりへの参画が増えてきています。

高知市内などであれば、子どもに関する事業や商店街などでの活動もその事例の一つだと思います。

現在の若者の傾向として、お金などではない価値に重きを置きながら活動をしているようです。それは「人との繋がり」や「やりがい」や「誰かのためになりたい気持ち」などであると思います。

このようなことから、これからは一つの企業だけに所属して暮らしていくのではなく、様々な目的のある団体やNPOなどにも関わり暮らしていくことは、閉塞感のある社会における突破点の一つになるのかもしれませんが。

モノの豊かさからココロの豊かさへ向けて、若者よ、一緒にまちづくりをしよう。

目次

2011年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 公開審査会

プレゼンテーション	
「まちづくりはじめの一步」コース	2
「まちづくり一歩前へ」コース	2
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース	3
公開審査会を終えて	4

2010年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 最終発表会・中間発表会

プレゼンテーション	
「まちづくりはじめの一步」コース	5
「まちづくり一歩前へ」コース	5
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース	6
最終発表会を終えて	7
運営委員の紹介	7
公益信託「高知市まちづくりファンド」とは/今後の予定	8

公益信託 高知市まちづくりファンド 2011年度 公開審査会

2011年7月31日(日)開催の公益信託「高知市まちづくりファンド2011年度 公開審査会」には、応募団体、一般合わせて約60名が参加しました。

A 「まちづくりはじめの一步」コース

1 審査



事前の書類審査にて助成団体を決定

2 審査結果



公開審査会場で発表

「まちづくりはじめの一步」コース結果発表(助成先なし)

グループ名	申請額(万円)	助成額(万円)
1 就活とまちづくりを考える会	3.4	-
助成額合計		-

★ GROUP 1 就職氷河期をとくすまちづくり... 就活とまちづくりを考える会

増田副運営委員長のコメント 書類審査は、相手に書類でどれだけ伝えられるかが一番のポイント。申請書作りが一番大事なスタート。申請書を通して、いろいろな人づくり、いろいろな活動への展開も考えられる。団体の気持ちをいかに相手に伝えるか、今後期待しています。

B 「まちづくり一歩前へ」コース

1 プレゼンテーション



各応募団体が事業内容を模造紙1枚に記載。3分以内でプレゼンテーションを行った後、3分以内で質疑応答

2 一次判断



各運営委員が各応募事業について(a),(b),(c)の3段階の判断をする ※(a),(b),(c)については下表参照

3 質疑



一次判断で(b),(c)が多い事業への質疑応答

4 最終判断 助成事業・金額の決定



各運営委員が、助成対象として推薦する事業を選ぶ。結果、過半数(6票以上)の推薦を得た事業が助成先に決定

■ 「まちづくり一歩前へ」コース結果表(助成先7団体)

グループ名	一次判断			最終判断		
	(a) 活動企画内容を支持し、今回の助成が必要だと考える	(b) 活動内容についても少し話を聞き、今回の助成が必要か判断したい	(c) 社会的に意義がある活動だが、助成趣旨にはなじみにくいと考える	今回の助成対象として推薦する	申請額(万円)	助成額(万円)
1 森の中の高知駅	■	■■■■■■■■■■	■	●●●	26	-
2 菜園場商店街活性化委員会	■■■■■	■■■■■■■		●●●●●●●●	30	30
3 特定非営利活動法人高知障害者スポーツ地域振興会	■■■■■■■■■■			●●●●●●●●	30	30
4 NPOこうちコミュニティシネマ	■■■■■■■	■■■■■		●●●●●●●●	30	30
5 NPO・JRC 日本ちびっこ龍馬元気の会	■	■■■■■	■■■■■	●●●	18	-
6 プロジェクトH	■■■■■	■■■■■		●●●●●●●●	30	30
7 チャイルドラインこうち	■■■■■■■■■■			●●●●●●●●	30	30
助成額合計					150	

B 「まちづくり一歩前へ」コース

■ プレゼンテーション ■

★ GROUP 1 高知駅周辺に木を植えよう、森をつくろう 森の中の高知駅



高知駅周辺に木を植えて、森をつくらうという運動をしている。チラシ等を作り、月に1回ピラ配りをして、市民に提案すると共にライブも開催する。行政あるいは事業者に出向き、植樹の現状や、もう少し木を植えてもらいたいと要望している。さらに、講演会等を開き、市民と一緒に勉強したいと思っている。来春には、新入学生などの記念植樹会をしたい。森の中の高知駅を作ることで、高知市をより良いまち、住みやすいまち、みんなの憩えるまちにしたいと思っている。

★ GROUP 2 頑張ろう菜園場(あの時の賑わいを取り戻したい) 菜園場商店街活性化委員会



土佐勤王党結成150年の節目をチャンスに、地域、団体が連携し、一層磨きかけた行事を行いつつ、横堀公園の周辺整備をさらに進め、商店街に人を呼び込みたいと計画している。①勤王党に関するモニュメントの設置。高知県、高知市等に指導を受けながら進めていく。既にモニュメント設置の場所と整備には着手している。②商店街マップの作成と、菜園場商店街振興組合のホームページの立ち上げ。実施した活動内容を、振興組合に情報として提供し、ホームページのグレードアップにつながる資料になるかと期待している。

GROUP 3 障害者スポーツを通じて障害者理解を深め、共に生きる地域づくりをめざそう
特定非営利活動法人 高知障害者スポーツ地域振興会



障害者スポーツを通じて直接交流し、一緒に楽しみながら障害者理解を深める機会をつくりたい。小・中学校へ出向き、車いすラグビー体験学習を中心に、障害者や人間の可能性への理解を深めてもらい、地域へと広めていきたい。また、リーフレットを配布して、PR活動やボランティアの増員を図りたい。障害者には、スポーツの楽しさや身体的、メンタル面での効果を知ってもらい、情報交換の場、社会参加の増加へとつなげたい。今後、高校以上の学校や地域へ範囲を広げていき、将来的には障害者と健常者が一緒に楽しめるユニバーサルスポーツの催しを行いたい。

GROUP 4 「映画館で街なかのにぎわいを」
NPOこうちコミュニティシネマ



街なか映画館を復活させる活動に取り組んでいる。車がなくても、仕事帰りや、ちょっと時間があれば映画を楽しめ、ついでに、お茶や食事、買い物など展開ができると思う。映画のテーマを題材に、商店やグループなど、市民に働きかけて楽しいものをつくっていく。今年から喫茶店のホールを使って上映会を始めた。フラットな床と低い天井が問題のため、段差をつくり、後ろは上から見るとスクリーン全体を見られるという環境になった。上映会が成立し、楽しんでくれる人が増えることにより、街なか「常設の映画館を」と声が上がってくることを期待したい。

GROUP 5 こどものこころに、ほっとするひとときを
NPO・JRC 日本ちびっこ龍馬元気の会



子どもの心にほっとするひとときを提供し、笑顔をみながらするために活動している。不登校・引きこもりは年々増加しており、高知県は全国ワースト6位の発生率である。不登校・引きこもり脱出のための支援として屋外イベントを年3回実施したい。

引きこもっている人は、興味のあるものに時間を費やしているのので、屋外イベントの内容は、興味を持ちやすいものにするなど、工夫しやすい。保護者の心を解放するためにも有効だと思う。また、「内発的動機づけ」「自信と自尊心」を大切にしながら、活動を行っていききたい。

GROUP 6 大好きな高知を勉強しなおそう！
プロジェクトH



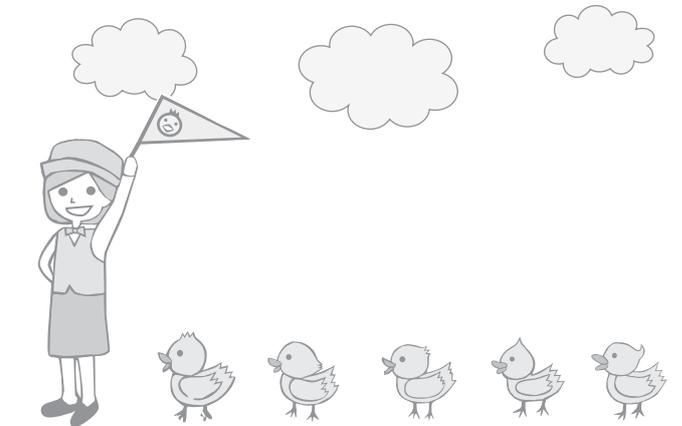
高知をより深く理解し、勉強していく中で、若者とのセッションの場を図り、高知のために頑張る人材を増やし、若者が高知に定住し、高知の活性化を支援するための橋つなぎになりたいと思った。活動を各方面に取り上げてもらい、地域と地域、人と人の橋つなぎ役として高知全体を元気にすることを目的に活動。高知のニーズに合った企画提案とガイド本作製により、地域の活性化を促すことで、経済効果が期待できる。今後は、勉強会、交流会、街頭アンケートを定期的実施。前回延期になった写真家・HASHI先生のパートフォリオレビュー&講演会を3月に実施する。

GROUP 7 チャイルドラインこうち「電話の受け手」ボランティア養成研修会
チャイルドラインこうち



昨年5月、18歳までの子どもたちが無料で電話をかける専用の電話を高知に開設。現在までに、80回以上、1,600件くらいの電話を聞いてきた。運用面の強化、子どもの声を聞く体制を、考えてつくっていききたい。子どもにはカード、大人にはリーフレット

等を配布したが、まだ浸透していない。これから、行政・企業の協力、子どもの活動をしている団体との連携も強化していききたい。第3期の養成講座を開設して、新しいスタッフの募集をする。現スタッフたちも、継続して定期的に研修を重ねていきたい。



「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

1 プレゼンテーション



各応募団体が事業内容を模造紙1枚に記載し、5分以内でプレゼンテーションを行った後、5分以内で質疑応答

2 一次判断



各運営委員が各応募事業について(a),(b),(c)の3段階の判断をする ※(a),(b),(c)については下表参照

3 質疑



一次判断で示された(b),(c)について 質疑応答

4 第1次審査通過事業の決定



各運営委員が、助成対象として推薦するかどうかを判断する。運営委員より過半数(6票以上)の推薦を得て、第1次審査通過となり、計画具体化費用として上限10万円を交付。

■ 「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース結果表

グループ名	一次判断			第1次審査通過事業の決定		
	(a) 活動企画内容を支持し、今回の助成が必要だと考える	(b) 活動内容についてもう少し話を聞き、今回の助成が必要か判断したい	(c) 社会的に意義がある活動だが、助成趣旨にはなじみにくいと考える	第2次審査の対象として推薦する	申請額(万円)	10万円以内の計画具体化費用を受ける権利を獲得
1 芳原まちづくり協議会	■	■■■■■■■■■■	■■■■■■■■■■	●●●●●●●●	150	○
2 絆・ふれあい高知	■■■■■■■■	■■■■■	■■■■■	●●●●●●●●	42	○

※今後は第2次審査書類提出(12月15日)、現地調査・第2次公開審査会(1月下旬)を経て、助成決定の可否が決まります。



GROUP 1 『芳原・歴史とこどもふれあいの杜』

芳原まちづくり協議会

もたちに体験学習をしてもらい、行事を手伝ってもらうことで、交流を図りながら実践学習をしてもらえる。地域や歴史に関心を持たせることで、地域づくりの育成ができる。高知大学生に対し、実践型体験学習のほか、育成機会を提供。地元ボランティアや資材提供など、地域に協力を求めると共に、県立歴史民俗資料館の指導を受けるなど、連携をしている。他方面の協力を取り付けながら粘り強く取り組んでいる。

竪穴住居をメインシンボルとして、自然と親しめる、ふれあいの杜を春野総合運動公園の東入口の中につくる。近くの畑で勾玉(まがたま)が表面採集されたが、発掘調査がされていない。増井遺跡群では、竪穴住居の跡が発掘調査された。付近には中世の城跡があり、歴史的風景は最高の場所、最高のフィールドである。これまで活動を通して、地域住民の地域への関心の希薄化が見えてきたので、若者たちに地域への関心を持ってもらいたい。

- Q 整備後、どういふうに地域づくりに生かしているのか。
- A 勾玉づくりや、火起こし、土器の野焼きなどを実施するにあたり、子どもたちだけではできないので、まちづくり協議会や、地域の古老などの協力を得ながら、やっていきたい。
- Q 建てた後、どのような運営をするのか。運営計画について聞きたい。
- A まだ具体的に、いつ開けるか決まってないが、毎日開けるわけにはいかないなので、行事をするときなど、メンバーが開けて、中を見て説明する運営にしているかと、話し合っている。



GROUP 2 活動目的の達成に向けて、自立運営するためのみんなが憩える場所「コミュニティカフェ 絆」づくり

絆・ふれあい高知

見するのがわれわれの使命だと思っている。また、核家族化、少人数家族の孤立等で、子育ての不安など、課題が多く発生しているのが現状。期待に応えていくためには、住民とのコミュニケーションづくりが大切だと思う。平成23年4月にコミュニティカフェを立ち上げた。カフェの中は、エアコンもテレビもない。今回申請したトイレは、旧式で段差があり、これを解消したいということである。

現在、高知市の現状は、地域での支え合いが不足している。「コミュニティカフェ 絆」は、食事や飲み物の提供、日常の困り事支援、他コミュニティとの交流、いろいろなことを目標に挙げて活動している。活動を通して地域住民のコミュニティづくり、世代間の交流を図ることにしていきたい。高齢者の中には、時間やゆとり、経験や技能など、いろいろなものを持っている人がいるが、地域とのつながりが薄く、地域社会に埋もれているので、そのような人を発見するのがわれわれの使命だと思っている。

- Q どれぐらいの人が利用しているか。
- A 1日に20人くらい。大体80%が高齢者である。
- Q 将来の見通しとして、運営的なこと、場所が替わることがあるのか。
- A イベントやお弁当の販売などで、運営費は十分。今後うまく機能して、拡大することになれば、現在の場所を本部とし、町内会に拠点を置いて取り組んでいきたい。
- Q トイレ整備をすることにより、何が変わるのか。
- A 現在、車いすの人が利用できず、足が不自由な人も段差があつて危ない。整備することによって、利用者が増えることは、間違いない。

今回の「まちづくり一歩前」コースは、応募たと思えます。数七件とそれほど多くはありませんでしたが、初めに応募したグループが四件、二年目が二件、三年目が一件という割合は、継続的な発展という立場からも、期待が持てると思います。これまで、高知のまちづくりは、どちらかというと「熱しやすく、冷めやすい」というような批判もありましたが、必ずしもそうではないと思います。地道な活動もたくさんあります。特に昨日の最終発表会で、「高知県フェニックス親の会」が六番目の卒業グループとなったことを考えると、着実に発展してきていると思います。また、今回はテーマについても、だいぶ広がりがあつたと思います。まず「子ども」、これは高知で最も重要なテーマですが、今回三年目の「チャイルドラインこうち」は、「受け手」養成講座の受講者も確実に増えてきています。また、商品の包装紙へのチャイルドラインの電話番号の印刷等、企業への協力呼びかけも大変ユニークなアイデアがありますので、あと一年ですが、ますますの発展を期待しています。それ以外に「商店街の活性化」「観光」なども高知らしいテーマです。さらに今回は、「障害者スポーツ」と「コミュニティシネマ」という新しいテーマも登場しました。「障害者スポーツ」は、地域振興会は、自分たちが自らスポーツを楽しむことではなく、小中学校へ出張して行き、共にスポーツを体験実施することを通して、ふれあい交流や人権教育を進めようという内容であり、大変有益な活動であると思いました。「NPOこうちコミュニティシネマ」は、四〇席程度の小ホールでの映画上映会を実施しようという企画で、帯屋町筋に大きな生み出すと共に、高知の芸術文化にも大きく貢献できる内容です。この二つの活動はすでに実績があり、さらなる普及や今後の広がりに大きな期待もあつて活動です。次に、今回、残念ながら選ばれてしまったグループについてもお話ししたいと思います。「森の中の高知駅」はそのタイトルからも分かるように、とても魅力的なテーマです。多分ほとんど高知市民が共感できる内容だと思えます。しかし逆に言えば、それだけ難しいし、長期的なテーマであることも事実です。したがって、このような活動の実現には夢のある中長期的なビジョンと共に、他方、極めて短期的で現実的な対応も必要になります。今回の応募内容や審査委員とのやり取りの中では、小さくてもいいけれど、一年目の着実な一歩が少し不足しているように感じました。県や市、JRの土地の借用が難しければ、民間の土地への植樹からでもスタートできる試みや仕掛けが欲しかった。

「まちづくり一歩前」コースは、応募たと思えます。数七件とそれほど多くはありませんでしたが、初めに応募したグループが四件、二年目が二件、三年目が一件という割合は、継続的な発展という立場からも、期待が持てると思います。これまで、高知のまちづくりは、どちらかというと「熱しやすく、冷めやすい」というような批判もありましたが、必ずしもそうではないと思います。地道な活動もたくさんあります。特に昨日の最終発表会で、「高知県フェニックス親の会」が六番目の卒業グループとなったことを考えると、着実に発展してきていると思います。また、今回はテーマについても、だいぶ広がりがあつたと思います。まず「子ども」、これは高知で最も重要なテーマですが、今回三年目の「チャイルドラインこうち」は、「受け手」養成講座の受講者も確実に増えてきています。また、商品の包装紙へのチャイルドラインの電話番号の印刷等、企業への協力呼びかけも大変ユニークなアイデアがありますので、あと一年ですが、ますますの発展を期待しています。それ以外に「商店街の活性化」「観光」なども高知らしいテーマです。さらに今回は、「障害者スポーツ」と「コミュニティシネマ」という新しいテーマも登場しました。「障害者スポーツ」は、地域振興会は、自分たちが自らスポーツを楽しむことではなく、小中学校へ出張して行き、共にスポーツを体験実施することを通して、ふれあい交流や人権教育を進めようという内容であり、大変有益な活動であると思いました。「NPOこうちコミュニティシネマ」は、四〇席程度の小ホールでの映画上映会を実施しようという企画で、帯屋町筋に大きな生み出すと共に、高知の芸術文化にも大きく貢献できる内容です。この二つの活動はすでに実績があり、さらなる普及や今後の広がりに大きな期待もあつて活動です。次に、今回、残念ながら選ばれてしまったグループについてもお話ししたいと思います。「森の中の高知駅」はそのタイトルからも分かるように、とても魅力的なテーマです。多分ほとんど高知市民が共感できる内容だと思えます。しかし逆に言えば、それだけ難しいし、長期的なテーマであることも事実です。したがって、このような活動の実現には夢のある中長期的なビジョンと共に、他方、極めて短期的で現実的な対応も必要になります。今回の応募内容や審査委員とのやり取りの中では、小さくてもいいけれど、一年目の着実な一歩が少し不足しているように感じました。県や市、JRの土地の借用が難しければ、民間の土地への植樹からでもスタートできる試みや仕掛けが欲しかった。

今回の「まちづくり一歩前」コースは、応募たと思えます。数七件とそれほど多くはありませんでしたが、初めに応募したグループが四件、二年目が二件、三年目が一件という割合は、継続的な発展という立場からも、期待が持てると思います。これまで、高知のまちづくりは、どちらかというと「熱しやすく、冷めやすい」というような批判もありましたが、必ずしもそうではないと思います。地道な活動もたくさんあります。特に昨日の最終発表会で、「高知県フェニックス親の会」が六番目の卒業グループとなったことを考えると、着実に発展してきていると思います。また、今回はテーマについても、だいぶ広がりがあつたと思います。まず「子ども」、これは高知で最も重要なテーマですが、今回三年目の「チャイルドラインこうち」は、「受け手」養成講座の受講者も確実に増えてきています。また、商品の包装紙へのチャイルドラインの電話番号の印刷等、企業への協力呼びかけも大変ユニークなアイデアがありますので、あと一年ですが、ますますの発展を期待しています。それ以外に「商店街の活性化」「観光」なども高知らしいテーマです。さらに今回は、「障害者スポーツ」と「コミュニティシネマ」という新しいテーマも登場しました。「障害者スポーツ」は、地域振興会は、自分たちが自らスポーツを楽しむことではなく、小中学校へ出張して行き、共にスポーツを体験実施することを通して、ふれあい交流や人権教育を進めようという内容であり、大変有益な活動であると思いました。「NPOこうちコミュニティシネマ」は、四〇席程度の小ホールでの映画上映会を実施しようという企画で、帯屋町筋に大きな生み出すと共に、高知の芸術文化にも大きく貢献できる内容です。この二つの活動はすでに実績があり、さらなる普及や今後の広がりに大きな期待もあつて活動です。次に、今回、残念ながら選ばれてしまったグループについてもお話ししたいと思います。「森の中の高知駅」はそのタイトルからも分かるように、とても魅力的なテーマです。多分ほとんど高知市民が共感できる内容だと思えます。しかし逆に言えば、それだけ難しいし、長期的なテーマであることも事実です。したがって、このような活動の実現には夢のある中長期的なビジョンと共に、他方、極めて短期的で現実的な対応も必要になります。今回の応募内容や審査委員とのやり取りの中では、小さくてもいいけれど、一年目の着実な一歩が少し不足しているように感じました。県や市、JRの土地の借用が難しければ、民間の土地への植樹からでもスタートできる試みや仕掛けが欲しかった。

二〇二一年度 公開審査会を終えて

運営委員長 卯月盛夫
(早稲田大学教授)

公益信託 高知市まちづくりファンド 2010年度 最終発表会・中間発表会

2011年7月30日(土)開催の公益信託「高知市まちづくりファンド2010年度 最終発表会・中間発表会」には、応募団体、一般合わせて約60名が参加しました。



1 プレゼンテーション

助成先団体が事業の報告を
模造紙1枚にまとめ、発表

- ソフトコース:3分間
- ハードコース:5分間



2 意見交流

運営委員や参加者からの
感想、また質疑に対し、
助成先団体が応答

卒業証書授与



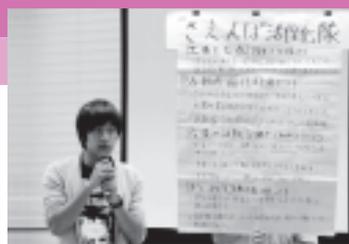
市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援する「まちづくり一歩前へ」コースは、同一の事業内容に対して3回まで助成を受けることができます。「高知県フェニックス親の会」は、2008～2010年度と連続助成を受け、今年、公益信託高知市まちづくりファンドを卒業しました。今後の更なるご活躍を期待しています。



最終発表会

A 「まちづくりはじめの一歩」コース

●プレゼンテーション●



GROUP 1 さえんば商店街を活性化し、にぎわいのある街作りと商店街の自立を目指す

さえんば活性化隊

就職活動で時間を取られ、前半は取り組みが進まなかったが、後半は商店街の人を呼んで、交流会や音楽会を開いた。去年の秋ごろに、菜園場商店街活性化委員会の半平太祭りを手伝わせてもらった。メンバーが活動に参加できなかったことが少し不満に終わってしまったと思う。今後は、菜園場商店街にて後輩たちに引き続き新たな活動をしてもらう。また今年も半平太祭りや、よさこい祭りのお手伝いなど、参加をさせてもらいたい。

VOICE

- ぜひ今後とも、学生さんと自治体のコラボレーションで活動を継続してほしい。
- 就活はわかっていることなので、最初の計画から甘い。



GROUP 2 若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み

Sunday Market Supporters

日曜日に入り、出店者と交流し、活動をしてきた。休憩・観光案内所を高知市と一緒に運営させてもらったり、出店者の農作業のサポートや、日曜市を知ってもらうためのツアー、日曜市の食材を生かしたお弁当の販売をしたりした。まだまだ計画性が甘くて見通しが立っていないことが反省点で、今後取り組むべき課題。新たにメンバーが入ったので、できることには取り組んでいきたい。

VOICE

- 活動の熱意が素晴らしい。その気持ちが出店者たちに伝わってよかった。
- 日曜市で多くの人と関わることで、たくさんの発見、出会いが財産になると思う。

B 「まちづくり一歩前へ」コース

●プレゼンテーション●



GROUP 1 北山の原生林を含む貴重な自然を未来に繋げるための学習の場にしよう

北山の原生林を考える会

原生林に生えてきた竹をなくして、日が当たるようにしたい。竹がなくなると、下から木の苗が育つ。大学の先生にお願いして、現地指導をしてもらったり、専門家から地質の勉強をさせてもらったりした。愛宕中学校の先生に、3回も来てもらい、子どもたちに伝えてきた。メダルも作成し、ラベルも付けた。しかし、資金がなかなか集まりにくい。今年は資金づくりを頑張っている。来年は、総括したマップを作りたい。

VOICE

- 楽しそう！北山に行きたくなった。
- 地域の方の優しさを感じる。うまく交流されている。
- 次回への抱負も同え、取り組みに対する熱い思いが伝わってきた。



GROUP 2 障がい児(者)の訓練会の事を地域に広めよう

高知県フェニックス親の会

ボランティアの確保、トレーナーの確保と育成、キャンプやミニ訓練にコーチを呼ぶための資金を確保した。動作法は機能回復訓練だけでなく、肩凝り、猫背、腰痛を和らげる効果もあり、障がい児・者だけでなく誰でも簡単に行える。好評により、2回実施。アドバイスのおかげで新しい場所にも広報活動ができ、多くの人に知ってもらうことができた。今までの物品販売に加え、エースワンのレシートを集めて寄付金を頂くことも新しく始めた。

VOICE

- 活動が広く知られ、参加者のいきいきした笑顔が印象的だった。
- 3年間、工夫をしながら活動しているだけあり、今後も継続できる力を感じる。

GROUP 3 頑張ろう菜園場（あの時の賑わいを取り戻したい）

菜園場商店街活性化委員会

道場跡周辺に敷き詰めた「ラブストーン」は、カップルや若者に、静かなブームとなっている。また、西郷隆盛の自筆の半紙や、複製の下駄についての案内板も完成した。訪れた人に興味をもってもらい、観光客の流動につなげたい。イベントの会場づくり、撤去など、多くの労力と資材の調達を要する。段取りや経費にリスクを伴うことから、今後、最善の対応策をもって臨んでいくことが大事だと思う。

VOICE

- アイデアを話題性に変えられた点、素晴らしい。行政の活動にのっかって、これからも発展してほしい。
- 細かな工夫がみられ、それを形にしているのが素晴らしい。

GROUP 4 大好きな高知を勉強しなおそう！

プロジェクトH

月1回のペースで勉強会を開催。今年1月から来年4月までは、パワースポット巡りをする。今年の3月に予定していたHASHI氏とのイベントが、震災のために延期になったことは、とても残念だったが、現在、来年3月に向けて準備中。今後は、勉強した内容を録画や録音、本にして残すようにする。そして、もっとマスコミやメディア等への広報活動を強化する。

VOICE

- 巻き込み方が素晴らしく楽しそう！！
- 情報を形に、ツアーなどを計画してもらいたい。
- 蓄積した高知のすばらしさをとりまとめ、発信して欲しい。

GROUP 5 みんなが“つながる”オーガニックなまちの日曜日

おびさんオーガニックマルシェ実行委員会

思った以上に天候・気温の影響を受け、なかなか開催できなかつたり、おびさんロードまで客足が伸びなかつたりした。出店者自体を増やすことに苦戦した。おびさんロードだけではなく、サニーマート六泉寺店の駐車場や蒔絵台で開催。上映会も開催し、ホールを使ってマルシェと映画、両方を楽しむイベントを開催。物を売るだけで解決するのではなく、意味を伝えながらやっていく楽しさ、可能性というのを知ることができた。

VOICE

- うまくいかなかった事に失望せず、次なるステップを歩んでいる行動がすばらしい。
- やってみないと分からない、というのはとても共感した。

GROUP 6 チャイルドラインこうち「電話の受け手」ボランティア養成研修会

チャイルドラインこうち

当初、開設日は週1回だったが、現在は月平均4回から7回と増えた。難しい電話の対応もあるが、否定や注意をせず、寄り添いながら聞いている。研修では、電話内容でしんどかったこと、電話の中で気付いたことなどを出し合って、自分自身を見つめる時間を大切にしている。定期的にニュースレターを発行し、会員や支援してくれた人に送っている。カードの配布について、これからは時間がかかっても直接子どもたちに渡すことにした。

VOICE

- 自らの手で配ることはよいこと！がんばれ！
- カードの手渡し、確実さを重要視されての行動に拍手！
- 心のサポートは素晴らしい。

GROUP 7 ～貧困ってなんだろう？～

高知ユネスコ

啓発活動をするにあたって、しっかりと知識を持つておくため、定期的に勉強会を開いた。啓発活動としての出前授業と、学習支援としての出前授業を行った。貧困には実質的な貧困と心の貧困があると考え、そのどちらにも問題意識を持って活動を進めていくことができた。サポートスクールは、潮江診療所との連携のもと、低所得家庭の中学生を対象に学習支援を行った。残念ながら、帯屋町でのイベントや小中学校の授業ができなかった。

VOICE

- 難しいテーマの取り組みだけれど、活動内容は評価できる。素晴らしい！
- 教育から入ってテーマに近づくのは効果的でいいと思う。
- サポートスクールの継続をしてほしい。

中間発表会

◎「まちづくり大きな一歩（ソフトからハードへ）」コース

●プレゼンテーション●

GROUP 1 子供たちが安心して遊べる公園に！誇れるふるさとにしよう！

蒔絵台町内会

1号公園はバスケットコートの舗装、3号公園は消音ネットの設置およびフェンスの設置、4号公園は散水設備を行った。1号公園の南側が傾斜していて、子どもが転落したら危ないので、簡易の柵を設置。総会で住民が集まり、公園の利用のあり方、ルールづくりを話し合った。「できることは自分たちでしょう」と、土砂が流れていた階段を歩きやすいようにし、小山を緑の多い部分に持っていきフラットにして、祭りやイベントに使いやすい形にした。バスケットコートは、ジュニア用、一般用と、大人から子どもまで遊べるように舗装。3号公園は、スチールフェンスの音が響くため、手前に普通のネットを張った。4号公園は、水が遠いので、散水栓を引っ張る工事をし、現在、花を植えている。今後は、住民による藤棚の製作や、子育て創成事業に取り組み、バスケットコートの看板製作、バスケット大会を開催しようと思っている。

VOICE

- 公園整備で町が楽しく豊かな感じになった。
- 自分たちの町を自分たちで作って行くという姿勢が素晴らしかった。
- アドバイスを受けてすぐに動けるネットワークの軽さ、住民同士のつながりが素晴らしい。
- 子どもが地域の中で、のびのびと遊べる工夫とともに、周囲の環境に配慮する工夫がよかった。

助成金返還の報告 2010年度助成先団体より、助成金の返還がありました。

■A1: さえんば活性化隊……………37,350円[事業内容縮小]

■A3: Sunday Market Supporters……………25,687円[事業費節約・支援あり]

■B1: 北山の原生林を考える会……………71,417円[事業費節約]

■B3: 菜園場商店街活性化委員会……………623円[残金]

■B4: プロジェクトH……………208,939円[震災で一部順延]

■B5: おびさんオーガニックマルシェ実行委員会……………51,000円[事業内容縮小]

■B8: 高知ユネスコ……………93,624円[事業内容縮小]

二〇一〇年度 ソフトコース最終発表会を終えて

運営委員長 卯月 盛夫
(早稲田大学教授)

ポス্টイットを紹介する運営委員や回答する助成先団体との対話―高知のことを愛し、高知の将来を考える皆さんの生の声を聞くことは、まちづくりの講演会を聞きに行くより勉強になりますね。ファンド設立の年(二〇〇三年度)、このファンドの予算設定は十年ですが、この十年間で皆さんがファンを価値ある、重要なものとするならば、みんなが第二期のファンドをつくり上げることもできます。僕は、次の十年、新たな形になることを期待します―とお話しました。残すところ、あと二年となりましたが、今日、まちづくりの問題やノウハウをお聞きして、次の十年を進めていくためにできることは何か、助成先団体の皆さんにも、ぜひ考えていただきたいと思いました。

大学生による取り組みで、(Sunday Market Supporters)代表者の「日曜日市が魅力的に離れない」という話を聞いて、学生に「研究する」という話を聞いて、学生の原点が見えたような気がします。学生は、その思いが強ければ強いほど、とても純粹にその中に入っていくことができます。ある発見をした時、また、高知らしさや、自分の人生に何か影響を与えると思った時の、その後の進め方が極めて純粹で新鮮ですね。「高知ユネスコも「貧困」というテーマで、活動を進める中でサポートスクールを始め、迷いながらも人との出会いで、「自分たちに何ができるか」ということを発見しました。練り込まれていない応募用紙にも、学生ならではの思いや、取り進む過程の中での気付きがあるかも知れないという期待を込めて審査していますが、高知のまちづくりには学生の役割があることを確信し、その期待を形にしっかりとつとめることを心強く感じました。大学(学内)での教育には限界があり、まちづくりの現場に向かい学ぶことと、学内での勉強の相乗効果で身に付いていく。高知では、市民活動サポートセンターという、まちづくりのノウハウをもった経験豊かなスタッフがいます。大学はサポートセンターと連携して、もっと学生を地域の中に出す仕組みを充実させるべきだと思います。

目標に向け、考えながら手法を見つけ

ていく、ということにおいては、「おびさんオーガニックマルシェ実行委員会」の活動に取り組む姿勢、そして、「チャイルドラインこうち」の、お祭り子どもたちをカードを手渡す、といった手法の紹介がありました。先回も、菓子袋に電話番号を入れたアイデアなど、他の団体に使えるノウハウがありましたよ。また、受け手に対して支え手という言葉に感動しましたが、そういうサポートの循環性、誰かが誰かを支えるだけでなく、支えている人がまた誰かに支えられていることを明確に示していると思いました。

「フェニックス親の会」が「まちづくり一歩前へ」コース助成歴三回ということによって卒業となりました。ファンドで三年間の支援をする中で、自立運営をすることができるようになるかどうかは、活動の内容等によっても違ってくるわけですが、発表にもあったとおり、ファンドによる支援を受けているということ、公共性が認知されるわけですね。これも、ファンドの一つの役割であると思います。今後は、レシートを集めて換金し、資金を集める工夫をしていくという提案があり、とても嬉しく思いました。

最後に、僕は今、松島湾を囲む五市町村を支援するため、松二回から東北へ行っています。地震や津波で全てを失った被災者と話をしている、ふと、自分が今、暮らしている生活、自分が置かれた環境について、もっと本質的に見直さなければいけないのではないかと思うようになりまし。今、日本は後進国と呼ばれるところから、いろいろなサポートを受けているわけです。この自然災害で、日本は豊かで、途上国は豊かじゃない」というような価値観が変えられてしまいました。生活や環境の中に、何か、おかしいことがないか、自身に問いかけて、一人一人が気づきや思いを見つけていかないと、まちは本質的に良くならないし、人も幸せな生活を送れません。ファンドも次の十年に向けて、高知の人たちの強い思いを再発見し、それを社会的な意味で形にするというようなステップアップの時期にきているのかもしれない。

運営委員紹介

Bコースの助成は、初めの応募が2件、2年目が2件、3年目が1件となり、継続性という視点からとても好ましい状況です。さらなる「まちづくりの輪の広がり」を期待します。また、Cコースの第1次審査も2件が通過し、ハード部門の定着が見られます。高知の市民まちづくりの10年の重みを感じました。



運営委員長
卯月 盛夫
(早稲田大学教授)



副運営委員長
増田 和剛
(高知中・高等学校教諭)

まちづくりに関わることで分かること、また、まちづくりをサポートすることで分かること。まちづくりは、さまざまな考え方や視点を持ちながら、一つの思いを形にすることから始まります。その形を多面的に振り返ることで、現活動を客観的に捉え、再確認することができると思います。



運営委員
井上 将太
(ばうむ合同会社)

公開審査会のテーマは「共感」であると考えています。皆さん自分たちの活動に対して、情熱を持たれている方たちばかりですが、その情熱を「共感」に変えることで、新たな参加者が増え、支援者が現れるのだと思います。造語ですが、自ら感じる「自感」から共に感じる「共感」へ。その「共感」を作る場が公開審査会なのではないでしょうか。



運営委員
植田 佳代
(NPO法人デイサービス)

子どもからお年寄りまで、障害の有無に関係なく利用できる、大家族のような共生型デイサービスを運営しています。公開審査会に参加して、「地域を良くしたい」「暮らしやすいまちを作りたい」「高知が大好き」という熱意と実行力に共感し、自分自身の活動の刺激にもなりました。



運営委員
川崎 敬子
(グラフィックデザイナー)

私自身、審査は2回目ですが、今回も新しい気付きとエネルギーをもらいました。中には、具体的な活動の準備がまだできていない団体、活動が物理的に難しい団体など、いろいろと問題はありましたが、高知が明るく元気になるために応援していきたいです。若い人の応募を待っています。



運営委員
近藤 昭仁
(元高知市市民協働部長)

初めての公開審査会で緊張し、選考する難しさを感じました。また応募団体の皆様の発表をお聞きし、その熱意と意欲に感心させられました。教育・福祉・環境など、様々な分野における皆様の地道な市民活動によって高知市のまちづくりが支えられていることを再確認した一日でした。



運営委員
四宮 成晴
(四宮計画事務所)

まちづくりと言っても様々な手法があります。思いもよらぬ切り口で思わぬ成果と効果ができることもしばしば。そんな枠にはまらないまちづくりがおこなわれているのが、ここ高知です。地域に響く音色はそれぞれ。「ド」かもしれない、「ミ」かもしれない。そんなおもしろさがぎゅゅと詰まっている本ファンドに改めて感服する次第です。



運営委員
新藤 こずえ
(高知県立大学講師)

これまで団体が行ってきた活動と、申請した事業のつながりを「まちづくり」の視点から結び付けて発表できたかどうか、採択の分かれ目になったと思います。発表団体の皆様が大切にしたいと思っていることが、他の市民にとってもそうなるためには、共感してもらうためのツボを探る必要がありますね。



運営委員
堀 洋子
(社)高知県建築士会)

ファンドも9年目を迎え、応募団体の活動内容も回を重ねるごとに多種にわたり、他の助成制度の枠にない内容などが応募されているように感じます。特に立場の弱い方たちへのサポート活動など、まちづくりとして採択されています。広い範囲でのまちづくりファンドと考えています。



運営委員
宮地 貴嗣
(ラ・ヴィータ 宮地電機株)

助成が決定した団体、残念ながら助成対象とならなかった団体と分かれました。皆さんの取り組んでいる事業に公共性があり、多くの市民に便益の供与になるのかどうか判断の分かれ道です。思い入れではなく、公益性を大切に事業立案をしていただきたいです。

公益信託「高知市まちづくりファンド」とは

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐(しゅつえん)して創設しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。多くの人にまちづくりに興味をもってもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。

「まちづくりはじめの一歩」コース

まちづくりへの参加の第一歩を踏み出そうとしている市民団体、あるいは活動を始めているが、まだ定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援しています。

助成金額 活動事業費の $\frac{2}{3}$ 以内で、上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査会で助成先を決定します。

お問い合わせ先:高知市市民活動サポートセンター TEL 088-820-1540

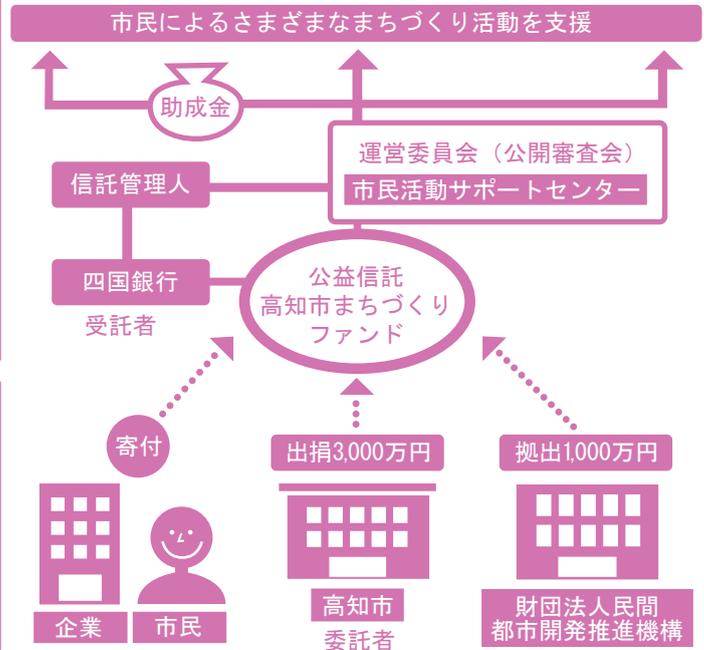
「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

高知を住みよいまち、豊かな地域社会にしていくために行うまちづくり整備事業を支援します。

助成金額 上限300万円(助成率100%)

審査方法 第1次公開審査会において、整備の内容について発表をしていただきます。審査通過団体には、計画を具体化するための費用として10万円を限度に助成。第2次審査書類提出、現地調査後、第2次公開審査会において発表をしていただき、1件程度、助成先を決定します。

お問い合わせ先:株式会社四国銀行 お客さまサポート部 信託担当 TEL 088-871-2226



四国銀行コメント

株式会社四国銀行
お客さまサポート部 信託担当

四国銀行では、「高知市民の自主的なまちづくり活動を支援していく」という信託設定の趣旨に沿って助成事業を行います。受託者としてファンドの管理・運営を行うことにより、まちづくり活動の一端を担い、私たちみんなの大切な高知市をより住みやすいまち、豊かな地域社会にしていくためのお手伝いができるよう努めていきます。

私たちもお手伝いします。

高知市市民活動サポートセンターコメント

当サポートセンターでは、まちづくりファンドの申請に関する相談や、公開審査会等の運営のお手伝いをしています。皆さまのまちづくりに対する想いを実現できるよう、支援していきたいと考えています。まちづくりファンドの申請に関すること、また、まちづくり活動や市民活動に関すること等、いつでもお気軽にご相談ください。

まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された3,000万円は、毎年取り崩しながら助成していくこととなります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に生かされるように、多くの皆さまのご寄付をお願い致します。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行
お客さまサポート部 信託担当

〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

電話:088-871-2226(直通)

高知市市民活動サポートセンター

市民に利用していただき、市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

今後のまちづくりファンド(予定)

審査会・発表会は、どなたでも参加することができます。まちづくり活動に関心のある方の交流の場として、お気軽にご参加ください。場所は、高知市たかじょう庁舎6階大会議室を予定しております。

「まちづくりはじめの一歩」「まちづくり一歩前へ」コース

2011年度事業

中間発表会 2012年1月28日(土)
最終活動報告書の提出期限 7月16日(月)
最終発表会 7月28日(土)

「まちづくり大きな一歩(ソフトからハードへ)」コース

2011年度事業

第2次審査書類提出期限 2011年12月15日(木)
現地調査 2012年1月下旬
第2次公開審査会 1月29日(日)

発行

高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階

TEL:088-820-1540 FAX:088-820-1665

E-mail:npokochi@siminkaigi.com 【URL】http://www.kochi-saposen.net/